

# 中野北遺跡

富田林市遺跡調査会報告書

編集・発行 富田林市遺跡調査会

住 所 〒584

富田林市常盤町1番1号

発行年月日 1997年6月30日

調査地 大阪府富田林市中野町三丁目

3074-3 外6筆

調査原因 宅地造成に伴う緊急発掘調査

調査主体 富田林市遺跡調査会

調査担当者 中辻亘

調査面積 146m<sup>2</sup>

調査期間 1997年3月11日～6月30日

## はじめに（図1）

中野北遺跡は、富田林市の北部にある栗ヶ池とその東側に広がる弥生時代から中世にかけての遺

跡である。遺跡の東側には石川が流れおり、富田林市では石川沿いに遺跡が多い。これまでに遺跡の北側を通る府道美原・太子線に接した部分を中心に調査が行われ、奈良時代から中世にかけての遺構が見つかっている。

今回は遺跡の北東部に当たり、申請者のタツミ開発株式会社の協力を得て、調査地北側に南北に延びる幅2mの第1調査区と、第1調査区南端から東に延びる幅3mの第2トレンチを設けて調査を行った。

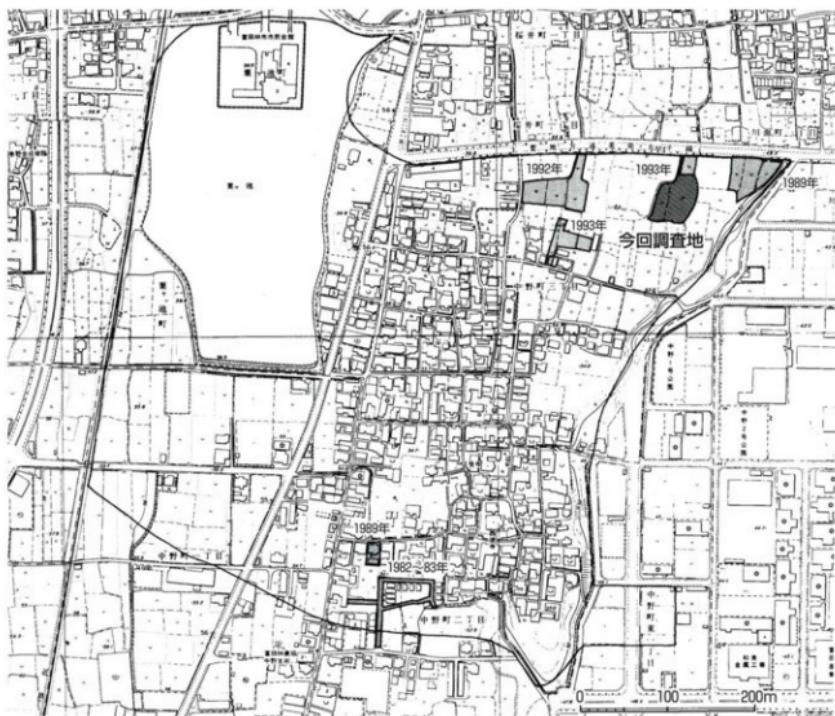


図1 調査地位置図

## 層序

各トレンチで層序が若干異なる。

第1トレンチの層序は第1層・耕土、第2層・床土、第3層・濁黄灰色粘質土、第4層・濁黄褐色混疊粘質土である。第4層はトレンチ北側でのみ確認できる。

第2トレンチの層序は第1層・耕土、第2層・床土、第3層・黄灰褐色土、第4層・灰褐色土である。第3層・第4層はトレンチ東側でのみ確認でき、第3層は土質が若干異なるものの、第1トレンチ第3層と同一の層と考えられる。

地山は調査地の南西部分が最も高く、北または東に行くに従って低くなっている。遺構は両トレンチとも地山面で検出している。

## 遺構と遺物

今回の調査では柱列1、落ち込み1、井戸1、溝5、土坑3、ピット73を検出した。遺構は切り合い関係や埋土の差から5期に分けることができる。以下、各時期ごとに遺構を概観する。

第1期は濁黄褐色弱粘質土を埋土とする遺構で、第1トレンチには多く見られるが、第2トレンチに

はほとんどない。この時期の遺構には第1トレンチ北寄りで検出された南北方向の柱列がある。柱列は4間分確認でき、更に北側に延びる可能性がある。建物跡の可能性があるものの、柱列が東西方向へ延びるのかは不明である。埋土からは土師器、須恵器、瓦器が出土しており、形状から12世紀半ば頃の遺構と思われる。

第2期の遺構は濁黄灰褐色弱粘質土を埋土とする遺構である。両方のトレンチで見られ、遺構の数が最も多くなる。第1トレンチ北端で検出された落ち込みは深さが0.3mあり、底面は凹凸が見られる。埋土からは瓦が多く出土しており、宝塔文軒丸瓦(図2-1)が含まれることから12世紀後半に埋められたと考えられる。

第3期は濁灰褐色混疊土を埋土とする遺構で、溝3がこれにあたる。溝3は東西に延びる幅1.0m、深さ0.2mの溝で、西から東へ傾斜する。埋土からは口縁を玉縁状にした瓦質土器の羽釜が出土していることから、14世紀前葉に埋まつたと考えられる。

第4期は濁灰褐色弱粘質土を埋土とする遺構で、第2トレンチに多く見られ、第1トレンチではやや

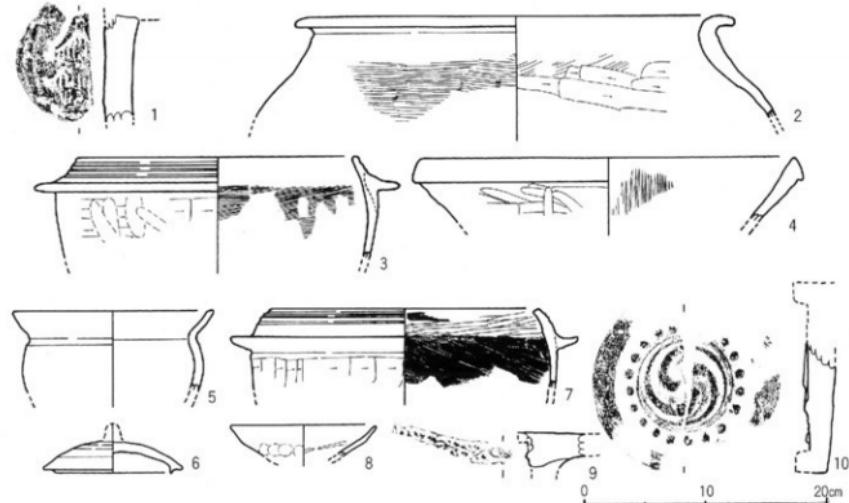


図2 出土遺物



第1トレンチ全景（北から）  
図3 造構平面・断面図

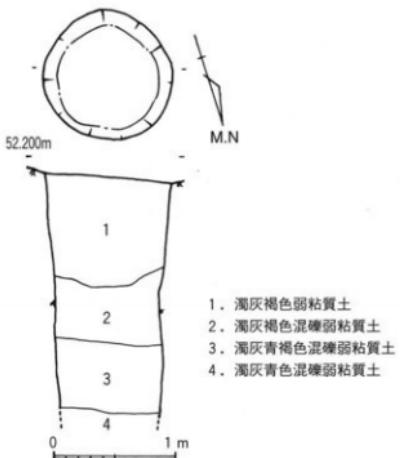


図4 井戸平面・断面図

少ない。この時期の遺構には第2トレンチ中央で検出した井戸（図4）がある。井戸は素掘りで、直径1.1m、深さは2.0m以上あり底までは確認できなかった。埋土は4層確認でき、下の3層は砾を多く含んでいる。埋土からは瓦質土器（図2-2～4）や瓦が出土しており、形状から14世紀後葉から15世紀初頭に廃棄されたと見られる。また、第2トレンチのほぼ全域が窪地状になっているが、井戸の出土遺物と窪地の埋土から出土した遺物に接合するもの

があることから、遺構が廃棄されるときに一緒に埋められたことが分かる。

第5期は灰褐色土を埋土とする遺構で、第1トレンチの溝1・溝2がこの時期の遺構である。これらの溝は幅が異なるものの、現在ある里道に沿って造られていることから、里道の側溝と見られる。出土した遺物が少ないため、詳細な時期について不明である。

### まとめ

今回の調査では中世の遺構群が確認され、継続的に生活が営まれていたことが推定される。遺構の埋土からは7世紀から8世紀にかけての遺物（図2-5、6）も出土しているものの、この時期の遺構は確認できない。

今回出土した遺物の特徴として瓦が多く出土していることが上げられる。瓦は12世紀代から14世紀代までのものがある。調査地の南側にある中野遺跡では同じ時期の多量の瓦とともに仏像の光背が出土しており、平安時代から中世にかけての寺院があったと考えられている。今回の瓦がこの寺院に使われていた可能性はあるが、確証を得る資料は今の所ない。また調査地の近くに南北朝期に喜志城が造られたとされるが、これらの瓦や遺構が城に関わるものかどうかについても不明である。

ふりがな	なかのきたいせき						
書名	中野北遺跡						
副書名	富田林市遺跡調査会報告						
卷次	5						
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著書名	田中正利						
編集機関	富田林市遺跡調査会						
所在地	〒584 大阪府富田林市常盤町1番1号 ☎0721-25-1000						
発行年月日	西暦1997年6月30日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
なかのきたいせき 中野北遺跡	大阪府富田林市 中野町三丁目 3074-3他	27214	34° 31'	135° 36'	1997.3.11 1997.6.30	146	分譲住宅 建設に伴う 緊急発掘調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
中野北遺跡	集落跡	中世	柱列、溝、井戸 落ち込み、土坑 ピット	土師器、須恵器、 黒色土器、瓦器、 瓦質土器、瓦、 サヌカイト			